※令和4年度以降入学生用

学校番号	1003

令和　5　年度　　数　学　　科

教科	数学	科目	数学A	単位数	2　単位	年次	1　年次
使用教科書	「高等学校　数学A」（数研出版）						
副教材等	「教科書傍用　クリアー　数学Ⅰ＋A」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

数学Aは、数学Ⅰとともに高校数学の基本となる科目です。大切な土台となる内容なので、きちんと理解するようにしましょう。そのためにも、集中して授業に取り組み、公式や主な解法を正確に理解しましょう。また、復習を重視して授業内容の定着を図ることが有効です前向きな気持ちで取り組んでくれることを願います。

2　学習の到達目標

(1)場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質についての基礎的な知識を身につける。
(2)事象を数学的に考察する能力を伸ばす。
(3)数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする態度を育成する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解するとともに,事象を数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし,論理的に考察する力,不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて自称の起こりやすさを判断する力,数学と人間の活動との関わりに着目し,事象に数学の構造を見いだし,数理的に考察する力を養う。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和4年度以降入学生用

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知 (a)	思 (b)	主 (c)
1	場合の数	集合の要素の個数 場合の数 順列 組合せ	a.集合・順列・組合せについて理解し,法則や公式を用いて,総数を求めることができる。 b.和の法則・積の法則を用いることができる場面について正確に理解し,条件のある順列や組合せの総数を求めることができる。 c.和の法則・積の法則・順列・組合せに関心をもつとともに, 有用性を認識し, それらを問題の解決に活用しようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物 等
	確率	事象と確率 確率の基本性質	a.事象・試行について理解し,確率の加法定理を利用して,確率を求めることができる。 b.確率を直接求めるか,余事象を用いて求めるか適切に判断して確率を求めることができる。 c.統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつとともに,余事象の有用性を認識し,問題の解決に活用しようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物 等
2	確率	独立な試行と確率 条件付き確率	a.独立な試行について理解し,公式を用いて,反復試行の確率や条件付き確率を求めることができる。 b..様々な事象の確率について,状況を正しく判断し,適切な方法で確率を求めることができる。 c.考え方に関心をもつとともに, それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物 等
	平面図形	三角形の辺の比 三角形の外心・内心・重心 チェバの定理・メネラウスの定理 三角形の辺と角 円に内接する四角形 円と直線 2つの円 作図 空間図形	a.平面図形の様々な性質について理解し,公式を用いて,線分の比や長さ,角度を求めることができる。 b.平面図形の様々な性質について,証明を含めて理解し,定理の使い分けや新たな性質の証明ができる。 c.図形の性質に関心をもつとともに, より一般的な図形の性質を考察しようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物 等
3	数学と人間の活動	約数と倍 最大公約数・最小公倍数 整数の割り算と商・余り 和, 差, 積の余り 合同式 ユークリッドの互除法 1次不定方程式 分数と小数 n進法	a.約数・倍数の定義,互除法について理解し,最大公約数・最小公倍数,1次不定方程式の解を求めることができる。 b.既知の倍数の判定法から他の倍数の判定法を類推し,考察できる。1次不定方程式の解の存在について,その理由も含めて考察し,説明することができる。 c.日常生活における具体的な事象に約数と倍数の考えが活用されていることを理解し,具体的な事象についてそれを確認したり考察したりしようとする。	学習活動の取り組み 定期考査 小テスト	学習活動の取り組み 定期考査 パフォーマンス課題	学習活動の取り組み 提出物 等

※　表中の観点について　　a:知識・技能　　b:思考・判断・表現　　c:主体的に学習に取り組む態度